

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
な か ま 編 集 係

〒285-0025  
佐倉市 錦木町 198-3  
電話 (043) 485-1801

2 ページ ロボットあれこれ ..... 佐藤 寛 洋子ちゃん ..... 加瀬 清子  
3 ページ 市長とポアンカレ ..... 村田 長保 秋の立山、黒部溪谷 ..... 青木 久輝

## その時、あなたは どうしますか

高橋 克 俊

ゴオーツ！  
せまる地鳴りで目が覚めた。  
地震だ？！

しかし関西には地震がないと言  
い張り同僚たちの顔が浮か  
んだ。地震の半年前の平成六  
年七月、大阪に単身赴任した  
夏は灼熱の毎日で、関東大震  
災の夏が非常に暑かったとい  
う記録と重なって交わした話  
題のひとつである。

この光景が私の脳裏に何分  
の一秒間だけ閃いたその時、  
ドドドオと縦揺れが襲った。  
寝ていた布団もろとも宙に舞  
う。起きることもできず、た  
だ舞うことに身を任せるだ  
け。そして横揺れがやってき  
た。窓ガラスがバリバリ鳴  
り、台所では食器や鍋等が大  
合唱である。未体験の大地震  
だと仰天しつつも、鉄筋コン  
クリートのマンションは潰れ  
るかな、このまま一巻の終わ

りかな、と揺れながら覚悟し  
た。  
地鳴りから二十秒後、揺れ  
が収まる。窓から外を覗くと  
暗闇でビルの非常灯が誰も居  
ない路面を寂しげに照らして  
いる。

しずかだ?! 背筋に悪寒が  
はしり胸騒ぎがする。東京に  
ドデカイのがやってきて大阪  
は裾野で揺れたのでは...。

平成七年一月十七日朝、阪  
神大震災を大阪の東三ひがしみくに国で体  
験した二十数秒の出来事であ  
る。直下型地震のため、いき  
なり地鳴りと揺れがきて、何  
もできず揺れが収まるのを待  
つだけだった。これでは、火  
を消せ、ドアを開ける、の地  
震対策も形無しである。私は  
単身赴任がさいわいして、何  
も無い部屋に寝ていたから物  
が飛んできたり落下してくる  
ことがなく無事だった。

願わくば揺れる前に幾ばく  
かの余裕があつてほしい。机  
の下にもぐったり逃げること  
が可能かも知れぬ。

昨年八月から気象庁が「緊  
急地震速報」を開始した。こ  
れは強い揺れがくる前に地震  
の発生を音声で知らせ、いち  
早く地震に備えて被害を最小  
限に食い止めるのが狙いであ  
る。たとえば「佐倉市は約十  
五秒後に震度六弱の地震」と  
いうように知らせてくれる。  
秒数は震源の場所によつて異  
なり、遠ければ長く、近けれ  
ば少なくなる。

余裕時間を、十秒や十五秒  
では何もできないと嘆かない  
こと。おなじみのテレビ・コ  
マーシャルは最短十五秒が基  
本で、それなりにキチンと言  
えるタイムである。その気  
なれば秒単位でも何らかの行  
動がとれるはず。そのため  
は日頃から何をするか、準備  
が欠かせない。

「十五秒後・・・その時、  
あなたは何をしますか。」

(編集委員)

## ロボットあれこれ

ロボットとは、チェコの作家カレル・チャペックが書いた戯曲「R・U・R」(ロツサム)の万能ロボット)に登場する人造人間につけられた名前ですが、これが今では一般的な呼び方になっています。

人間と同じように動く機械を作りたいというのは、人間の長年の夢でしたが、一番初めに実用化されたのは、工場などで使われている産業用のロボットでしょう。

これは人間が手でやる仕事を、より速くより正確にやるために考えられたものですが、このように人間の体の一部の代わりにするロボットは、いろいろな種類のものが数多く作られていて、日本の産業を支えています。

その一方で、犬形や人間形のロボットの性能もずいぶん進んできて、自由に動き回ったり、歩いたりするのは勿論

転んでも起き上がれるようになりました。

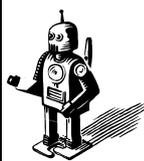
このような動きができるようになったのも、人間の体の動きを研究して、ロボットの動きに取り入れたからです。

人間は脳と神経と筋肉が自動的に連絡し合って、自分では気づかない間に、うまくバランスを取って動いています。

ロボットにもこのような、動きながらバランスを取る仕組みを組み込むことで、やっとな歩いたり起き上がったりする動作が、できるようになったのです。

今後ロボットはますます進歩していくでしょうが、特に老人介護用のロボットや、盲導犬の代わりにするロボット、留守番用のロボットなどなど直接人間の手助けをしてくれる種類のロボットが、早くできてほしいものです。

(表町 佐藤 寛)



## 洋子ちゃん

とりとめもない思いに、ふと洋子ちゃんを思い出した。洋子ちゃんがブラジルへ移住したのは、小学校四年生の時であった。

時局的な背景のあつた移住を、四年生なりに理解しながら結局「洋子ちゃんは、遠い外国へ引越していくのだ」と、表面的なお別れをした。

洋子ちゃんの家は農家であり、それも伯父さんと同居の農家であった。

日本を去る洋子ちゃんを教壇に立たせ、先生は話された。ブラジルがどんなに遠い国であるかを……。波に揺られて何日も船の旅をして辿り着くのだと……。今にして思う。先生には時局的な深い感慨が

おありであつただろうと……。その二年後に、盧溝橋付近で起きた事件は、満州事件を発端とする十五年戦争へと拡大していった。

東京大空襲で被災し、戦中

戦後の食糧難の時代を生きてきた私は、忘れともなく洋子ちゃんのことを忘れていた。

何時であつたか、テレビがブラジル移民のドラマを放映していた。ドラマのテーマは洋子ちゃんの移民とは異なっ

ていたものの、辿り着いたブラジルは沃野よくやではなかつた。食うや食わずでの原野の開拓から始まつた。移民団の精神的肉体的なご苦労を偲び、洋子ちゃんを思つた。

ブラジルへの移民と同じ頃であつたか、満蒙まんもうを開拓する移民団のあつたことも記憶に残っている。

洋子ちゃんは戦争中どう過ごされたのか、もしかして引揚げられたのか、それともお元気で現地いらつしやるのか。余命の少くなつた私のこの頃の思いの一つである。

(白井 加瀬 清子)



## 市長とポアンカレ

NHKの公開録画「週間ブック・レビュー」なのは何で渡費市長が？と鼻白む思いだった。例によって型にはまった「ご挨拶」じゃシラケるわいと、主催者の無神経に稍腹も立った。

ところがその挨拶が従来のパターンを遥かに超えた聞き応えのあるもので、市長の人間の豊かさを彷彿とさせ、忘れ難い名スピーチとなった。残念ながら私の能力不足でその全てを忠実に再現できないが、小川洋子氏の『博士の愛した数式』に触発されてフランスの数学・物理学者H・ポアンカレ（大統領・首相のレイモン・ポアンカレの従兄）の著作に言及し、自然と人間・芸術の共存、在り方の再考を促すものであった。

ポアンカレも吉田洋一訳『科学と方法』（岩波文庫）も今は殆ど忘れられた存在だ

が、市長のスピーチは今だから考えなければならぬ科学と現在社会を説いて非常に含蓄のある有意義なものだった。科学も数式も自然から自然を学ぶものであり、それは自然を守ることに通ずるというものであったように思う。

ここ（佐倉）がカコトピア（Kakotopia: 絶望郷「ユートピア」の反語）であるとは言わないが、少なくともユートピアではない。ユートピアに欠けているもの、それを市長のスピーチが婉曲にはあるが的確に指摘してくれた。「墓場に行つてごらん。墓の割れ目にきれいな小花がいっぱい咲いているから」（A・トーデ）といえる。そんな繊細な美意識に満ち溢れた町への第一歩がああスピーチには見え隠れしていた。

（新臼井田 村田 長保）



## 秋の立山・黒部峡谷

数年前の秋でした。立山と黒部峡谷へ旅をしました。晩秋の紅葉は実に見事でしたが、旅で人との出会いもまた楽しい思い出でした。

一、酒を愛する老人一人旅  
立山の食堂食堂で昼食。隣の席に爛徳利を傾ける老人一人、標高二、四五〇メートルの高原で屋外は寒く熱燗で暖をとっていると勝手に想像して、散策に出かける。三〇分程して食堂に戻ると、かの老人、下界の喧騒を避けるがごとく悠然と、一人静かに高原の酒杯をかたむけ、味わっていた。

二、車中の元気な老人

立山駅から宇奈月に向かう途中、乗り換えのため寺田駅で下車。電車待ちのホームで七十年代後半とお見受けする老人に話しかけられる。老人は

富山出身で、現在千葉の小見川で薬局を営んでいるのと、旅先で千葉に住む方に偶然会ったことで、待ち時間、車中で話はずむ。老人は元軍人で昨夜は戦友宅に泊まり、今夜は温泉に泊まる予定。亡き妻、息子、嫁のことなど次から次の話題で、話の相手に骨が折れたが、初対面の老人の身の上話これもまた旅でこそ味わえる楽しい時間だった。上市で下車した老人はホームで拳手の敬礼で、電車が見えなくなる迄見送ってくれた。さすが元軍人。

いつまでもお元気で。

（六崎 青木 久輝）



## 2月の黒板

### 『なかま』原稿募集のお知らせ

『なかま』の2・3面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。

**[原稿規定]** 字数 650字(13字×50行)以内。ワープロによる原稿(縦書き)でも結構です。

内容 随筆・・・日常の出来事、生活の中で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などご自由にお書きください。

『なかま』に対するご意見・ご感想などもお待ちしております。

いただいた原稿は、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただきます。

**問い合わせ** 佐倉市立中央公民館 (第2・第4月曜日は休館日です)

**電話** 485-1801

**URL** <http://www.city.sakura.chiba.jp/kominkan/cyuuou/index.htm>

### わくわく道

二月三日は節分ですが、立春の前日に行われる行事です。佐倉でも鐺木町にある麻賀多神社や、草ぶえの丘などでも豆まきが行われているのではないのでしょうか。

東京下町で生れ育った私も、楽しみの少なかった戦後のこと、大振りの目刺しの頭を柵の枝に刺して玄関や勝手口に魔除けとして飾り、夜

父親が表口、裏口、窓を開けて大きな声で「福は内、鬼は外」と豆をまく後姿はとても大きく感じられました。近所からは「福は内、鬼は外、鬼の目ん玉つん抜けー」などと聞こえてくる、楽しい思い出として心に残っています。

佐倉に来てからは、あまり豆まきの声は聞こえてきません。近くに地元の方々が守っている小さな麻賀多神社がありますが、今年行って一年の無事を願ってきましよう。

### あがとき



高橋様、貴兄の貴重な体験談タイムリーな掲載になったと思います。普段から防災について考えておくことが肝要であることを学びました。

佐藤様、ロボットの語源を知り目からウロコが落ちました。将来、老後のケアはロボットのお世話になるのでは？

青木様、晩秋の紅葉はすばらしかったと思います。上市

駅で下車した老人の情景が目に浮かびます。

村田様、芥川賞作家小川洋子女士の著書に触発されポアンカレの著書に話しを展開した市長の講演を拝聴したい。

加瀬様、私もブラジル移民のドラマを興味深く見ました。現地では大変苦勞なさった様子が映し出されていました。

洋子ちゃんのお話がわかると思います。

今年も皆様方の積極的なご投稿をよろしく願います。

(坪井)